

合同研修会パターン3実践記録

幼小のなめらかな接続を目指して指導を振り返り、具体策を考え、連携に結び付けるパターンとして実践した。

参加者：幼稚園担任2名、小学校担任2名

進行役：幼児教育センター長期研修員

資料を配り、合同研修会の目的を説明する。簡単に自己紹介をしてもらう。(5分)

ぐんまの子どものためのルールブック50の20に「人の話をしっかり聞こう」があるが、話をしっかり聞く子ども像とはどのようなイメージか、話し合ってもらおう。(15分)

小A「心から聴いている。相手のことをよく理解して聴いている。相手を理解して、思いやり、相手の立場になれることが話を聴くことにつながる。」

幼B「話を聴いてもらってうれしかった経験がたくさん重なると、先生や友だちの話も聴いてあげようという気持ちが自然に育ってくる。相手の立場になって相手を理解することが、話を聴くことにつながってくる。先生が『しっかり聞いて』と言ったりすることは、かえって話を聞く子を育てるためには遠回りになってしまう。」

小C「自分の思いが出せるという経験が大切。自分が安心してものが言えたり、聴いてもらえるんだあとという思いがないと伝えられない。」

幼D「相手の話を聴きたいって思う子どもになってほしい。聴きたいっていう思いは、聴いてもらった心地よい体験が積み重なって身に付くもの。」

保育ビデオ『年長さんがつくったおばけやしき』の一場面を視聴して、話を聞く力を育てるための先生の関わりについて話し合ってもらおう。(20分)

司会「話を聴いてもらってよかったという経験が話を聴くことにつながっているのか、先生はそのために何をするのか、そんなことを頭に思いうかべながらビデオをご覧ください。」

幼B「一人一人の子どもが思っていることを伝えたい気持ちを受け止めて、しっかり聴こうと先生は思っていたように見えた。子どもの気持ちを相手に伝えていくために、先生はこの場にいる子どもたちに理解しやすいようにちょっと整理して返していた。けっして答えを出すとか、導くとかはしていなかった。」

幼D「話したい気持ちをまず出させる。お互いに思いを出しているので子どもたちどうし聴き合っている。先生はあまり言葉を発していなかった。」

小C「先生があまりしゃべらないで子どもたちが聴き合える環境をつくっていた。一人一人が何かを言ったときに、先生が『うん』とうなずいたりとか、聴く姿勢の見本となる行動を示している。それが子どもたちの聴くという態度に無言でも影響している。」

小A「先生は受容していた。意見をよく聴いて、気持ちも態度も心も先生がよく聴いてくれるんだなあとという安心感が子どもたちにはあった。先生の態度や様子を見て、子どもたちは触発されていた。」

司会「先生がきちんと聴いてあげるモデルになったり、うなずいたりしてやることを話を聴いてもらった経験になりますね。そして、話を聴いてもらってよかったという経

験を積み重ねることが、人の話をしっかり聴くことにつながっていくのですね。」

接続期の指導における大切なことについて話し合う。(20分)

幼B「子ども一人一人の実態をよく理解して、先生は話をしなければならない。」

幼D「話を聴くというのは相手を理解する、分かってやること。」

小C「幼稚園でも小学校でも、子どもたちは自分の話を聴いてもらった、受け止めてもらった体験が、一人一人かなり差がある。個人差がある中で、一人一人の子どもたちを集団の中でも見ていかなければいけない。それが話したり、聞いたり力の力につながっていく。」

幼B「先生が子どもをきちんと理解しようという気持ちがあってはじめて、子どもの姿が見られるようになる。」

小A「子どもたちを理解するために、よく話を聴いてやって、安心させて、聴いてやれる時間がたくさんあればいいなあという意識が先生にあるだけでだいぶ違う。そういう意識をもたなければけっして実行することはできない。そうすれば、子どもたちはこの先生は話を聴いてくれるというのが分かる。」

幼D「何、聴きたいって思ってもらえる先生の話、話を聞くこと以外の心のふれあい、信頼関係を結んでいこうとする姿勢が大切。」

接続期のなめらかなつながりに向けて、これからの具体策などを話し合う。(20分)

幼D「それぞれの子どもの実態のとらえ方、発達に応じた指導援助についてお互いに伝え合うことによって、日常の基本的な指導に役立てたい。」

幼B「日常の指導を保幼小のつながりを意識して見直すとともに、大切なことはお互いに伝え合っていくことが必要。」

小A「お互いに参観し合い、そのあとに懇談会をもつことで指導のねらいや内容の理解を深め合うことが大切。年長と1年生の担任だけでなく、全校全園で取り組むような体制作りができるとよい。」

小C「情報交換だけでなく、お互いの教育内容や指導について話し合う研修会の計画を年度当初に組み入れることが大切。しかも年々継続して積み重ねていくことが重要。」